

授業科目	* 助産学実習 I (正常)				単位	5		
履 修	必修	関連資格			ナンバリング	MI31402J		
開講年次	1	開講時期	通年	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	古賀 玉緒、山田 恵、前田 幸、新郷 朋香、杉浦 絹子							
授業概要	<p>正常経過にある対象を受け持ち、助産過程を展開し、実践能力を養う。</p> <p>基礎助産学実習で学修した正常経過にある対象の助産過程を更に発展させ実践する。</p> <p>本科目では正常に経過する対象およびその家族を対象に妊娠期から退院後までの継続した助産ケアを通し、対象の状態に応じた個別的なケアを提供するために必要な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>また、これらの実践を通し、。チームの一員として他職種との連携や協働することの必要性や専門職としての助産師の役割や態度を学修する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	実習要項参照							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	35	0	0	65	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			25				25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)						5	5	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						10	10	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)			10			45	55	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>標準レベルに到達したうえで、以下のレベルに到達できる。</p> <p>1. 対象のニーズを把握し個別性をふまえて継続的な視点で助産過程を展開できる。</p> <p>2. 自律して対象や他者とコミュニケーションを図りながら実践できる。</p>				<p>1. 対象の健康状態を説明できる。</p> <p>2. 対象やその家族に対し、安全安楽な健康診査や助産ケアが実施できる。</p> <p>3. 対象への健康教育を実施できる。</p> <p>4. 主体的に意欲をもって実習に取り組むことができる。</p> <p>5. 責任感を持ち倫理観をふまえ実習に取り組むことができる。</p> <p>6. 助産過程を展開し正しく表現できる。</p>				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	実習オリエンテーション(古賀 玉緒)			
2	実習準備:助産技術演習他 (古賀、前田、山田、新郷)			
3	臨地実習 実習要項参照			
4	実習のまとめ (古賀、杉浦、前田、山田、新郷)			
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				

23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	妊産褥婦と新生児のアセスメントとケアに関する知識と技術を要するため、基礎科目・専門科目・支援科目および助産学基礎実習で学習したことを復習して実習に臨んで下さい。また、「看護職の倫理綱領」や「看護の倫理原則」を改めて確認し実習に臨みましょう。			
テキスト	堀内成子編集「(助産学講座 5) 助産診断・技術学 I」,医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 6) 助産診断・技術学 II [1]妊娠期」,医学書院 我部山キヨ子他編集「(助産学講座 7) 助産診断・技術学 II [2]分娩・産褥期」,医学書院 石井邦子編集「(助産学講座 8) 助産診断・技術学 II [3]新生児期・乳幼児期」,医学書院			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	日本産婦人科学会他編・監:産婦人科診療ガイドライン 2020,日本産婦人科学会事務局 病気が見える vol.10 産科(第4版):医療情報科学研究所編,メディックメディア 北川真理子他編:今日の助産マタニティサイクルの助産診断(第4版),南江堂 石村由利子編:根拠と事故防止からみた母性看護技術(第3版),医学書院 エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠・分娩期・産褥期 2020—,2020,日本助産学会 妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて～,公益社団法人日本産婦人科医会,中外医学社 その他、必要に応じて紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	本実習は期間・時間ともに長期で不規則になることが考えられるので、健康管理に留意して下さい。言動・身だしなみにはくれぐれも注意してください。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	評価は、レポート(実習記録の内容)、その他(実習態度、実習取り組み姿勢など)について実習評価表に基づいて行います。なお、レポートは随時、コメントし返却します。			

